

教 育 目 標		<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性を備えた生徒の育成を目指す。 ・ ものづくりとビジネスの実習、演習を通して、技術を身に付け社会に貢献できる生徒の育成を目指す。 			総合評価		
運 営 方 針		<p>「ものづくりとビジネスの出会いを通して人作り」をスローガンに、高等学校普通教育並びに工業科・商業科等に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせて、産業及び文化の進展に貢献し得る豊かな人間性と自立的な態度を 育成するとともに、清新な気風に満ちた魅力ある校風の樹立を目指す。</p>					
昨年度の成果と課題		本 年 度 の 重 点 目 標		具 体 的 目 標			
<p>生徒指導事象が減り、生徒の多くが自らすすんで挨拶ができるようになった。また、生徒会活動が活発になり、生徒会が主体となり各学校行事の運営もすることができるようになった。反面、基礎学力の低下により希望する進路に進むことができない生徒がいる。</p> <p>本年度は、生徒会活動をより一層充実させ、地域との連携に取り組みたい。また、基礎学力の向上に向けて新たな取組を行いたい。</p>		(1) 基礎基本を定着させ、着実な学力の向上をめざす。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年・科別のシラバス、評価の観点を示し、学ぶことの大切さを理解させ、基礎学力の 定着を図る。 ・ 自己の目標を明確にし、その達成に向けた取組の一貫として資格や検定の受検を奨励する。 			
		(2) 集団や社会の一員としての自覚を高め、自己実現への積極的な態度を育成する。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 人としての生き方やあり方について考えさせ、自己の進路を見つめさせる。 ・ 地域の一員として、挨拶運動や奉仕活動を実施する。 			
		(3) 生徒と心の通う人間関係を築き、基本的生活習慣や自己管理能力を培う。		<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールやマナーを身に付けさせ、規範意識の向上を図る。 ・ 一人ひとりの生徒が抱える課題を理解し、適切な支援を行う。 			
		(4) 安全教育の充実を図るとともに、安心して学校生活を送ることができるよう環境の整備に努める。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活の中の様々な危険を予測させ、安全な行動をとらせることができるようにする。 			
評価項目	具体的目標（評価小項目）	具 体 的 方 策 ・ 評 価 指 標		自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
学習指導	わかる授業・学力をつける授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教員が当該教科・科目のシラバスを作成するとともに、これを用いて年度当初に生徒へ学習の目的や学習内容、評価方法を周知する。 ・ 各教員が、当該教科・科目において2、3学期当初に学習内容等を再度周知し確認する。 ・ 機械・ビジネスの専門教科で、シラバスを活用して、指導方法や教材の工夫、学習方法の把握の仕方などについて情報交換を行い、指導力の向上に努める。普通教科間でも同様の取り組みを行う。 ・ 1学期末に生徒による授業評価を行い、その結果を授業改善に生かす。 ・ 観点別評価に則した授業内容を研究し、アクティブラーニングを積極的に実践していく。 					
	個に応じた指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間考査後の成績を全職員で確認し、意見交換のもと個々の生徒の学習状況を把握・確認する。 ・ 常に学習の必要性を訴えかけるとともに、特に1、2学期末の成績不振者への指導において、普段の学習が成績に反映されることを十分に理解させながら指導する。 ・ 個々の生徒の興味関心や学習意欲を充実させるために、授業においては全体指導とともに、生徒各自の理解度に応じた課題を行う時間を設けるなど工夫する。 					
	資格・検定の取得に対する積極的な支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取得可能な検定や受験可能な資格の情報を広く生徒に提供し、資格取得への関心を高める。 ・ 生徒の実力を考慮しつつ、将来役に立つ資格や検定を絞り込み、資格の取得や検定合格に向け重点的に取り組ませる。また、これらの資格検定については、より多くの生徒に受験するように働きかける。 ・ 機械科、ビジネス科で取り組んでいる資格や検定について生徒の段階に応じて教師が呼びかけ、取得意欲を盛り上げていく。 					

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 （評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価 （結果・分析）及び改善方策
生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・欠席防止を徹底し、基本的生活習慣の確立を図る。（昨年度の15%減） 挨拶の励行、時間厳守及び自己管理の徹底し規範意識の向上を目指す。 各授業や学校行事等に臨む際の姿勢や態度などにおける基本的なマナーの向上を図る。 交通安全教室及び巡視指導等を通して、通学時の安全確保に努めるとともに、交通マナーの向上を図る。 月1回生徒にプリント（たばこのお話）を配布し、たばこの害に関する意識を向上させるとともに、薬物乱用防止教室をとおして薬物の恐ろしさを認識させる。 個別面談や家庭訪問で把握した生徒の状況を、教職員間での共有に努める。 				
	生徒会活動の活性化及び部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会役員の主体的活動や生徒会行事の活性化を図り、充実した生徒会活動に努める。 部活動の勧誘を積極的に行い、加入率を昨年度より上回るようにする。（昨年度の10%増） 				
人権文化	人権学習LHRの充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の人権感覚を高めるために、人権の視点を大切にしたものを見方を深めるための人権教育HRの充実を図る。 様々なテーマ（「部落問題」「在日外国人問題」「障害者問題」「性的少数者の人権」等）を4年間で実施できるように計画を立案する。また、必要に応じて、そのための職員研修を実施する。 				
	校内生活体験発表会に向けた取組の充実	同じ学校で学びあうなかまとして、なかまの思いを共感、共有することで生徒個々の自尊感情を高め、自己実現への意識を高める。				
	特別支援体制の共通理解	配慮を要する生徒の把握に努め、生徒、保護者、教職員の共通理解の上、支援が可能となるような体制を構築する。				
進路指導	生徒理解(1～4年)と進路学習	<ul style="list-style-type: none"> 「自己点検カード(1年)」と「進路希望調査(1～4年)」等を利用して生徒理解に努め、全教員で個に応じた進路指導が行えるようにするとともに、各学年に応じた進路HRを実施する。 生徒自身が自己の進路を考える上で参考となるよう、進路学習会を実施する。 				
	4年生の進路決定	<ul style="list-style-type: none"> 就職・・・より効果的な指導を行い、内定率を高める。（就職相談、企業訪問、応募前職場見学、各関係機関との連携、就職試験対策、事務処理等） 進学・・・将来の職業選択に繋がるような指導、情報を提供する。（進学相談、学校訪問、学校案内・募集要項の取り寄せ、学校見学・体験の紹介、入試対策、事務処理等） 進路実現のため、担任と保護者との連携強化に努める。 				
	各種奨学金の申請及び事務処理	「奈良県高等学校等奨学金」「奈良県高校生等奨学給付金」「日本学生支援機構奨学金(給付・貸与)」「石澤奨学金」などの申請や事務処理を適切に行う。				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
環境保健体育	体力の向上	スポーツテストを通じて、生徒の運動能力を把握し、その課題を明確にし年齢層に応じた体力の向上の取組を行い、運動に興味を持たせるよう工夫する。				
	健康保持増進と安全教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 定期健康診断や各種検診を計画的に実施し、生徒個人の健康状態を把握し各検診の受診率93%以上を目指し家庭との連携を密にする。 防災教育を充実させ避難訓練を行い自分自身の身の守り方等の意識付けを行う。 				
	環境整備と環境美化への意識向上	<ul style="list-style-type: none"> 随時、施設の安全点検を行い、環境整備に努める。 環境美化への意識を高めるため、各クラスの環境委員を中心に自主的な清掃活動に取り組みさせる。 				
機械科	<ul style="list-style-type: none"> 基本的、基礎的な知識・技能の確実なる習得 ものづくりへの興味・関心の育成 各種検定試験への支援 	<ul style="list-style-type: none"> 座学で学習した内容をしっかりと理解し、その知識を用いて加工する手順や方法を考え、作品をつくり上げる。 作業後のレポート作成により実習内容の再確認をおこない、学習内容の定着を確実にする。 機械科に関する各種検定試験について、放課後及び長期休業期間を利用して支援する。 作品製作に重点を置くことにより、完成の喜びを味わわせ、ものづくりの楽しさを認識させる。 				
ビジネス科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本を定着できるための授業方法の工夫 各種検定試験(希望者)への継続的な支援 新しい教育課程や評価制度の研修を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTなどを活用、授業展開の工夫改善をおこなう。 授業内容を通して資格取得に興味・関心を持たせ、受験者を増やせるようにする。 各種検定試験受験希望者に対して、放課後の補習や部活動を通じて継続的な支援を行う。 教員間の情報交換を年2回以上行う。 				
1年	定時制高校の生徒としての基本的な生活習慣を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検シートの記入により自己理解(学習面・生活面)をさせる。 年度当初の個人面談、家庭訪問、中学校訪問等により、積極的に生徒理解に努め、さまざまな場が学習の機会であることに気付かせる。 				
2年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 学習意欲の向上 学校生活の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活と仕事を両立させ、欠席・遅刻を減らすよう指導する。 挨拶の励行やマナーの向上について継続的に指導する。 基礎学力を定着させるため、きめ細かい指導を行う。 専門学科の特色を活かし、実習、技能講座、検定試験等に積極的に取り組むよう指導する。 学校行事、生徒会活動、部活動等に積極的に取り組むよう指導する。 				
3年	進路実現を目指し、基本的な生活習慣や自己管理能力を養う。	来年度進路選択を迎えることを自覚し、社会人として必要な基本的な生活習慣、マナー、モラルの定着を目指す。				

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 （評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価 （結果・分析）及び改善方策
4年	自己の進路実現に向けて、適切な指導が行えるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒各自の将来設計を考えさせることができるように、日常の交流を通じて適切なアドバイスを行えるようにする。 HR活動を通じて、就職や進学等に関する情報を生徒に知らせるようにする。 				